

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都国分寺市南町 1-13-9
園名	アスクこくぶんじ南町保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の高さの変わる仕組み

<テーマの設定理由>

年少児から楽器や音楽等に触れる機会を設け、興味関心を深めているため。
うたに合わせて手を叩いたり、体を動かしたりすることを楽しんでいるため。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。
また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

6月・7月 音の違い。カップの中には何が入っている？音の高さ・低さはどうかな？

8月・9月 楽器の音はどんな音？楽器の種類を学ぼう

10月 歌とリズム。自由にリズムに合わせて鳴らしてみよう

11月 楽器、声の大きさと心地よく感じる大きさは？

12月1月 大きさ・リズムを自由に考えて演奏してみよう。オリジナルの楽器を作ってみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・スズキメロディオン…息遣いによって音が変わることを知る為に使用。
- ・フルーツバスケットシェイカー…大きさの違いによる音の違いや振り方の違いの有無を確認する為に使用。
- ・アゴゴウッド…どのように音をならしたらよいかや棒の当てる箇所による音の違いを確認する為に使用。
- ・カスタネット…叩いて演奏する楽器の音の違いに気付くために使用。
- ・タンバリン…カスタネットとの音の違いに気付くために使用。
- ・すず…振り方の違いによる音の違いや大きさの違いに気付くために使用。
- ・トライアングル…音の響き、高さの違いに気付くために使用。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：音をいろんな方法で表現してみよう

探究活動の様子：

絵本の絵や紙コップの中に入っているものの音をオノマトペで表現した。コップの中身が違くと音が変わることに気付くと「ちょっとこっちはカラカラしてる」「さっきのはぼこぼこしてた」「石が入っているんじゃない」とそれぞれ感じたことを共有していた。その後、すくわくの活動以外の時間の音楽で触れた楽器の中身を考えたり、砂場で遊んでいる際に、砂をお皿に入れて揺らし音を鳴らして楽しむ姿が増えていった。次に言葉だけでなく絵で音を表現する活動を取り入れた。車の描いてある紙にピアノの音に合わせて道路の線を描いていく活動や、音楽の講師が用意してくれた風の音、水の流れる音、動物の鳴き声や足音を聞いて白い紙に自由に描いた。「これはライオンだ。怖い音するもん」「海の音がするな、海に鳥がいるのかも」と情景を想像する様子も見られた。コーナー遊びの時間でもお絵描き帳に犬を描きながら「わんわん」「わんわんは何食べるかな～」「迷子の子ネコちゃんもかこうよ」「まいごのまいごの～♪」と声に出したり歌を歌いながら絵を描く姿が多く見られるようになった。また、活動と活動の間の時間に、いろんな形の絵を描きどんな音がするかみんなと考えたり、本物の動物の鳴き声を流して、何の動物の鳴き声か当てるクイズなどを取り入れると、子ども同士でも鳴き声のクイズを出し合っていた。戸外でも紙コップやプラスチックのコップを持っていき、見つけたものをコップに集めどんな音がするのかと言う活動も行った。どんぐりは「ころころころころってしてる」「カラncカラncの音にも聞こえる」と子どもたちがそれぞれ感じたことを共有し、「ジスター（保育室にある玩具）もカラカラの音しそうじゃない」と言う発想があり、室内でも普段子どもたちが遊んでいる玩具で同様の活動を行った。「レゴ沢山入れたら音大きくなったよ」「おれ一個しか入れなかったからコトコトの音しかないや」と個数や音の大きさに気付き話していた。一月の音楽の前に紙コップにビーズ、ストローを細かく切った物や散歩で拾ってきたどんぐり、小石をそれぞれ好きな量を入れ、紙コップに好きな絵を描き、オリジナルマラカスの製作を行った。「ドングリ沢山入れよう、ストローもいっぱい！」とそれぞれたくさん入れる子もいれば一つ材料を入れて音を確かめていき、「ストローだけにする」とストローの音が気に入りストローのみの音のマラカスを作る子もいた。キャストの音楽でどんなマラカスを作ったのか発表したり、普段の朝の会帰りの会で歌う季節の歌をマラカスを持って参加してマラカスの音を楽しんだ。

ふりかえり（保育士の気づき）：

最初は子どもたちが様々な音について考えてみたり、言葉や絵など表現し、音について興味関心を持てるような活動を意識して行うようにした。子どもたちも積極的に活動に参加し楽しみ、興味関心を持つ姿が見られるようになったため、子どもたちの気づきを保育者が広げていけるような問いかけや声の掛け方を意識して行った。また、動物の鳴き声から、動物園ごっこが児始まったり、絵にオノマトペの音を平仮名で付け加えたりと音以外の遊びにも広がっていき、子どもたちの遊びの幅も広がっていくように感じた。子どもたちの気づきから保育者が広げていくだけでなく、子どもたちにもどんな音の遊ぶか、どんなことがしたいか聞き、子どもたちと活動を考えていく事もできると、より意欲的な活動になると感じた。



出てくる絵はどんな音がするかな



ぼわーんっ!

ギザギザ!



ガタゴトガタゴト♪

ねこちゃんも描いちゃおうかな



ピヨピヨきこえる～



どんぐりたくさんいれよう



ハートかいちゃおう!

私のマラカスはこんな音だよ～



おもちゃのチャチャチャ～♪

【4歳児実施分】

問いを考える：「楽しい時の音はどんな音？」「悲しい時の音は？」と子どもたちと話し合う機会を作っていく。また、実際にピアノで音を流し「これはどんな音だろう？」と考えていく。

探究活動の様子：

まずはどんな音があるのか、音の違いに気付いたり音に親しんだりできるよう、紙コップに身近な玩具などを入れて振り、内容物を変えながら音の違いを楽しんでいった。中身を入れ替えると「音が変わった！」「中身が少ないと、軽い音がする」と変化する音を友だちと話しながら楽しんでいた。その後は、入れる容器そのものを、プラスチックコップに変えたり、散歩先で見つけたものを入れたりして楽しんだ。「砂を入れて見よう」「沢山入れて見よう」「こっちの葉っぱを入れたら面白そう」と散歩先でのすくわくプログラムを楽しむ姿が見られた。また、その時に「振るだけではなく容器を握ってみても音が鳴る」という事に気付いた児がおり、試していた。様々な音があるということ踏まえた上で、歌も様々な音があるということを学んでいった。様々な国の音楽を流し、「どんな音かな？」と聞かれると「なんか、悲しそう」「静か」と答えていた。実際に朝の会で歌っている馴染みのある歌を、声の大きさ表を元に大きさを変えたり、めだかのがっこうを歌った際に「覗くときはどんな感じで歌おうか」「そーっとって、どうやって歌う？」と問いかけると「こうやって…」と声を潜めて歌っていた。また、様々な楽器にも触れてみる活動も取り入れていった。皆、興味を持ち、鳴らしてみる姿が見られた。楽器の種類についても教わり、四つの楽器の種類に仲間分けをして親しんで行った。「これは糸（弦）があるから、げんめい楽器だね」「これは、膜があるから、まくめい楽器だね」と楽しんで取り組んでいた。」

ふりかえり（保育士の気づき）：

子どもたちが新しい事、知らない事を知ることに対してとても興味を示す姿が多く見られた。世界の音楽、楽器の種類など、初めは楽器のカードで種類分け、その後は実際の楽器に触れるなど、段階を踏むことでより興味を持てたように感じる。楽しい音、悲しい音など子どもたちがイメージしやすいフレーズを用いる事で、より一層集中して取り組んでいたと感じた。歌う事自体はとても好きなため、今回のテーマは子どもたちも興味を持ちやすい内容だったと感じた。



ブロックを入れてみよう！



中身が違くと音が少し変わる！



僕は積み木を入れてみたよ！



楽器の仲間分け！色んな種類があるなあ

色んな楽器があるなあ…これは何楽器かなあ？



本物の楽器だあ！すごい！



タンバリンを叩きながらだと歌いやすいね！

「そーっと覗いて」の所は声の大きさは何が良いかな？



そ〜とだから…『1の声』かなあ？

【5歳児実施分】

問いを考える：音のなる仕組みは？様々な音を感じてみよう！

探究活動の様子：

年少期から楽器やうたに触れる機会が多く、音や音楽に興味関心を深めている様子が見られたため、音に関連する活動を取り入れていきました。初めての活動では紙コップを使用し、中に入っているものの音の違いを一人ずつ調べてみました。その中で、中身（レゴブロックや積み木等）により「音の高さの違い」や「音の大きさの違い」に気付き、子ども同士で共有しあう姿が見られました。その後のグループ活動では、4～6人ずつの少人数グループに分かれて、どの音が好きか、音からイメージしたものは何か話し合い発表を行いました。グループで一つ「音当てクイズ」も作り、クイズを出し合い楽しみました。その後も“容器を統一し、中身を替える”“容器を替えて、中身を統一する”など少しずつ違いを作り、探求活動を深めていきました。音を探る中で、「タンバリンと音が似ているね」「すずの音みたい」と楽器の音を思い出すやり取りが多く見られたため、その後の活動では楽器と見つけた音との比べる活動を取り入れていきました。

楽器の音を聴き比べる中で、「音が大きいと綺麗に聞こえる」「ちょっと鳴らしたほうが素敵だね」とリズムに注目したり、うたを歌い、うたに合わせて自由に鳴らしてみたりする姿が増えたため、楽器を合わせて演奏する合奏活動や自由に楽器に触れる時間を設けていきました。子どもたちも初めて扱う楽器も多かったため、外部講師と一緒に楽器の扱い方を学びながらリズムのイメージを広げていきました。中でも鍵盤ハーモニカに興味を示す児が多く、1音1音違う音がでることから自分自身で音階を覚えて「メリーさんのひつじ」や「かえるのうた」などを弾くことを楽しむ姿が見られました。その後も「こいぬのマーチ」をテーマの曲として一人ひとつ楽器を持ち、好きなリズムで鳴らしてみる遊びを行いました。同じ楽器を持つ児とは楽器を鳴らすリズムを決める話し合いの時間を設け、「全部鳴らしたほうがいい」「順番に鳴らした方がきれいに聞こえる」「（すずを）横に振ってみよう」など自分の持つイメージを共有し合い、1曲クラスみんなで作りました。「こいぬのマーチ」は生活発表会で保護者の前でも自信を持って発表することができました。その後も様々なうたを歌いながら自由に楽器を鳴らしてみたり、リズムを決めて合奏にしてみたりとのびのびと楽しんでいきます。

ふりかえり（保育士の気づき）：

音をテーマに様々な探求活動を行ってきました。最初に行ったコップの中身を替えて音の違いを考えてみる活動では、最終的に玩具の素材（木製・プラスチック等）の違いに着目し、素材が同じだから音が似ているなど年長さんならではの発見がありました。子どもたちのその時々々の興味・疑問に応じて楽器や道具の準備、環境設定を行ってきましたが、特に自由に触れることのできる環境づくりを心がけてきました。合奏では「おうちの人にも聞いてもらいたい」という子どもの気持ちを尊重し、楽器決め・それぞれの楽器のリズム決めを子ども主体で行いました。楽器によって「どのリズムでならしたら綺麗に聞こえるか」が最初は自信がなく言葉で伝えるのみで楽器に触らない姿もありましたが、他の楽器の児がお客さんとなり「かっこいいね」「上手だね」とお互いにいい所を伝え合い、だんだんと自信がついていく姿もみられました。合奏の発表も終えた後も「今度はどんな曲でやる？」「違う楽器もやってみたい」と意欲的な姿が見られた為、今後も自由に楽器に触れる機会を設けていきたい。



どんなおとが
するかな？



つみきとレゴを
いれよう！



みんなで順番に
ならしたいな



いっしょにならずと
きれいな音がする！



きめたリズムで
演奏会をしてみよう！



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都国分寺市南町 1-13-9
園名	アスクこくぶんじ南町保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ドッジボールで勝つためにはどうしたら良い？

<テーマの設定理由>

1 クラスの人数が多く、複数のチームに分かれて集団あそびを経験することができる。仲間意識が強まり、チームで集まり作戦を立てる姿が見られる。球技への興味関心が強く、中当て・サッカー・ドッジボール等様々な活動に取り組んでいる。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行い、月に1回体操の講師を招致し、身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていった。活動はクラスを2～3グループに分かれて行い、その後の意見交換はクラス全体で行った。

6・7月 「よける」ってなんだろう？「よける」と「にげる」の違いは？

8・9月 「なげる」とは？まっすぐ投げるにはどうしたら良い？

10月 遠くまでなげるには？強くなげる方法は？

11・12月 ボールを取るには？キャッチの仕方を考えてみる

1月 今までのことを踏まえて実際に中当てやドッジボールをやってみる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ドッジビー270…ドッジボールで受け止めることができるようになるための練習に使用した
- ・カラフルボール…ボールに親しみ、投げたり、受け止めたりしてみる練習に使用した
- ・パタパタパネルゲームセット…相手に向かって投げるため、パネルにて練習を行った
- ・ふあふあサッカーボール4号…ボールの大きさや重さの違いによる投げ方の違いを知る
- ・マーカーコーン…安全に活動するための枠やボールを投げるための目印として使用

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える： 中当てってどんなゲームだろう？ どうやったらアウトにならないかな？

探究活動の様子：

6月ごろは、ルールのある遊びを始めたばかりの子どもたちはドッジボールではなく、ボール転がしゲームと言う名前で、枠の中から出ずに保育者が転がすボールから逃げるといった遊びから始めた。最初はボールを見ずに逃げ回っていた子どもたちも、当たってアウトになると「アウトになっちゃった」と悔しそうにしたり、悔しくて泣く子どももいたため、繰り返し遊んでいくうちに「反対側に逃げよう」「ボールが来るぞー」と当たらない場所を探したり、保育者が持つボールをよく見ながら逃げるようになっていった。夏ごろには転がす役を子どもたちが順番に行うようにすると、転がし方も「〇〇ちゃんあてるぞー」と狙って転がしていた。様々なゲーム遊びのなかでもボール転がしゲームは好きな子が多く見られ、「今日は何のゲーム遊びにしようかな」と保育者が言うと「ボール転がし！」とリクエストしていた。次にペットボトルボウリングを行うと「2本だから2ポイントか、」「やった、俺は6ポイントだよ」と狙ってピンを倒す遊びも楽しんで参加していた。ゲーム遊び以外にも保育者がボールを落とすのをキャッチする遊びや、保育者にボールを投げたり、キャッチボールをする遊びも取り入れた。回数を重ねるごとに取るコツをつかみ自信をつけていき、ボールを使った遊びをより楽しんで行うようになった。ボールを投げる、取るに慣れてきた頃に、中当てを行った。「ボール転がしと違って、転がさないで投げます。逃げる人はボールから当たらないように逃げるか、キャッチしたらセーフです。ボールが床について当たるのもセーフです。」「お兄さんお姉さんルールになったけど出来そうかな」と言うのと「できるよ」「簡単余裕～」と自信満な様子で参加した。保育者の説明をよく理解していて「ボールから逃げろー」と今まで通り逃げる子もいれば「こっちに投げてみなー」とキャッチしようとする子がいた。投げる方も両手でポンと下から投げたり、片手で横から投げる姿が見られ、何ゲームかすると、「俺もこっちの投げ方にしよう」と他児がしていた投げ方を真似する子もいた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

ボールを使った遊びをしたことのない三歳児クラスでは安全面も考慮し、ボールを転がす中当てから始めた。最初はとりあえずキャーと逃げる雰囲気を楽しんでいた子どもたちが、何度も同じゲーム遊びを行ううちに、保育者がどうしたらいいか問いかける前に、自分たちの中で当たるのが悔しかったから当たらないように考えて動いて見たり、当たらない子の真似をしたりする様子が見られたため、問いかけ何度か体験した後に様子を見て行うように意識して活動を行うようにしていった。キャッチボールの遊びはボールの数があまりなくなかなかできなかったが、保育園でやったキャッチボールを休みの日に保護者で行った子も何人かおり、保育園内だけでなく家庭にも広がって行くことがもっと多くなっていくと良いと感じた。三歳児の中では中当てまで行ったが、進級後もドッジボール遊びにつながっていくようにしていく。



【4歳児実施分】

問いを考える：実際にボールを投げてみて、指定した場所に届かなかった場合には「どうしたら遠くまで投げられるだろう？」と話していく。

探究活動の様子：

ボールを「避ける」とはどんなことなのか、「どのように避けると、上手に避けられるか？」という内容から救わくプログラムを始めた。子どもたちに「どうしたらよけられるか？」と問いかけた時に「ボールをよく見る」「びゅんってよける」と考えて答えていた。実際に講師と保育者がボールを投げると、ただ「よく見る」だけでは避けられないということに気が始め「ボールが飛んで行った方をすぐみる」という気付きをする。その後、考えた避け方を実践すると以前に比べ上手に避けられるようになり、日々の保育の中で行う中当てにも取り入れていった。次に「ボールを投げる時に、どのようにすれば遠くに投げられるか」について考えていった。ボールを避けるという内容より難しかったようで、「思いっきり投げる」と答える姿が見られた。講師からヒントを得ると「足を前に出す」「手を大きく動かす」と答える姿が見られた。実際に中当てで使用しているサイズのボール、小さいボールでそれぞれ遠くに投げる内容を行う。初めは遠くに飛ばない児も、回数を重ねることで遠くに飛ばせていた。次に「ボールを取る」ことを追及していく。どのような手の形で取ると上手にとれるのかを考えていく。練習を重ね、「待つときはどうぞの手」ということを学ぶ。

ふりかえり（保育士の気づき）：

このすくわくプログラムを通して、ただ「遠くに投げる」だけではなく、その先にある「避ける」「とる」ということに関しても深く追求することができた。子どもたちが好きな中当てやドッジボールを題材にすることで子どもたち自身の興味関心がより一層強まったのではないかと感じた。子どもたち自身、すくわく以外の活動で中当てを行った際に「すくわくで先生とどうやって投げると遠くに投げられるか話したの、覚えてる？」と問いかけるとしっかりと学んだことを言語化し応えることができていたので、成長が見られた。

何があってもボールを見てね！
…あ！あっちに何かあるよ！



ボールを見ないと！
…でも見ちゃう～



こうやって見れば
上手に避けられそう！



ボールから離れると
避けやすいね！



足を前に出すと遠くまで
投げられるぞ！

人型の的に当ててみよう！
どうすれば届くかな？



足を前に出すと届くんだ！



いくよ～！



上手に投げられた！
やった～！



【5歳児実施分】

問いを考える：ドッチボールで強くなるためには？

探究活動の様子：

探究活動は、「にげる」と「よける」の違いから始めました。最初はボールが来ない方向に走っていた子どもたちでしたが、「ボールを投げる人の手を見て（ボールが飛んでくる方向を）考える」「ボールが高い時は体を小さくする、低い時は横や上にジャンプする」などの気付きがあり、“ボールを見てから動き出す”を意識する姿が見られました。活動は少人数ずつ“よけるチーム”“投げるチーム”を交代しながら進めていきました。だんだんとボールをよけることが身に付き、当たる人数も減ってくると「もっと当てるにはどうしたらいい？」という子どもの疑問が見られたため、その後は「投げる」ことの探究活動を始めました。

“なげる”では「真っ直ぐ投げるには？」「強いボールを投げるには？」の2点に注目し、壁の目印に向かってボールを投げる、体操講師・他児と2人一組になってキャッチボールを行う等の活動を通して、気付いたことや感じたことを話し合いました。「投げる相手に向かってつま先を向けるとまっすぐとぶ」「体は横向きで腕は上から下に投げる」の意見が多く出ました。

「よける」「なげる」とできることが増え、実際にドッチボールを行ってみると、ボールを取らないと投げで当てることができないから勝てないと感じる児も多かった為、次は「とる」ことに注目し活動を行いました。一人でボールを上に向けて取る、体操講師・他児とキャッチボールをして取る活動を小さいボール・中くらいのボール・柔らかいボール等様々なボールを使用し、気付いたことをクラス全体で共有しました。

「手のかたちはお皿にする」「むねと手の間にボールを入れて体でとる」等一人ひとり違った意見が出ました。意見を共有した後のドッチボールでは積極的にボールを取ろうとする姿が増え、ボールの取り方を同じチームの児と教え合う姿も見られました。

今現在も戸外や室内でドッチボールを行っています。チーム決め後にはそれぞれチームで集まり「足は前に向けて投げよう」「投げる人から遠いところにいこうね」など勝つために作戦を立てチームみんなで協力して楽しむ姿が見られます。

ふりかえり（保育士の気づき）：

今回の活動を通して「勝つためには？」と様々な視点から考える子どもたちの姿が見られました。探求活動を始めるまでのドッチボールでは投げるのが得意な児にボールが集まり、自信がなく投げることを嫌がる児の姿もありましたが、探求活動を進めていく中で、一人ひとり「なげる」・「とる」など苦手なことを得意になるために“得意な子に聞いてみる”“真似をしてみる”等の姿が少しずつ増えていきました。そのため保育者が答えを出してまとめるのではなく意見を交換する場を設け、子どもたち自身で考えて話し合う姿を見守っていきました。中当てやドッチボールを行う中で、全員がボールに取る・投げることを意識する姿も増え、ボールを取ることができた時にはチーム関係なくみんなで「すごいね」「今のじょうずだね」と褒め合い、楽しんでいきます。子ども同士で良いところを認め合い、経験して学んでいく姿に年長さんとしての成長を感じる事ができました。



どっちによけたら
あたらなかな？



なげる方向に指先
と足をむける！



手はおさらの
かたち！



2 チームに分かれて
ドッジボール対決！

